

3

2022

三重病院

ニュースレター

news letter vol.271

01 薬剤科の新設備紹介

02 臨床研究部からのお便りー第45回ー
災害用テントを新たに導入しました!03 通所支援事業のひとコマ
やまばとギャラリー情報コーナー
5病棟の生活のひとコマ⑦04 病院からのお願い
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

新

薬剤科の
設備紹介

平成17年7月に当時新設となった外来棟に薬剤科はあります。調剤室、一般製剤室、無菌製剤室、医薬品情報室、事務室、倉庫と6部屋で業務を行っています。およそ20年前に移設してきた設備の幾つかは現役で運用していますが、今回はこの1年で整えることができた新しい設備をご紹介します。

調剤支援システムSphere(スフィア)、
錠剤分包機、散剤分包機

Sphereはサーバー1台、端末PC3台からなるシステムであり、電子カルテから送られてくる薬剤部門に関するデータを常時、受信して処方せん、薬袋、注射ラベルの発行、薬剤の相互作用の確認、錠剤分包機、散剤調剤監査システムへのデータ送信を主に行っています。最新型の調剤支援システムで三重県では初の運用となります。昨年3月の導入のため、新しい処方せん、薬袋にも違和感はないと思いますが、今でも各種レイアウトや記載項目、薬袋のサイズ選択方法など細かく変更、アップデートを行っています。

調剤支援システムの更新と同時に錠剤分包機と散剤分包機も更新を行いました。

錠剤の一包化は服薬アドヒアランスの向上にも繋がる有益な調剤方法ですが、今回の錠剤分包機はコンパクトながら、分包スピードが速かったり、印字フォントの対応範囲が拡大されていたり、さらに半錠などを手動でセットする際のLEDガイドやバーコードを用いた錠剤充填確認など安全性機能も充実しています。

散剤分包機は単に粉薬の調剤だけでなく、錠剤やカプセルを服用できない場合や規格単位外(例えば0.3錠分など)を投与したい場合にも粉碎、脱カプセルを行い粉末化して調剤するときに使われます。薬剤科では2台の散剤分包機を運用していますが、分包紙への印字が手動で制限があった1台を更新することにより、散剤調剤業務が以前よりスムーズになりました。



▲錠剤分包機



▲散剤分包機

クリーンベンチ

無菌製剤室にはクリーンベンチが備え付けられています。更新前の機種は昭和に導入されたものであり、さすがにメンテナンスが難しくなったため昨年の更新となりました。

コロナウィルスワクチンや治療用アレルギー、治験薬の調整にと活躍しています。



▲クリーンベンチ

小型自動軟膏混練機

アレルギー科、皮膚科などからは様々な2種以上の軟膏混合の処方があります。処方数も量も少ないため、軟膏へうで全て均一になるように混合する作業には時間がかかります。

今年、新規導入が叶ったこの機械は、2種以上の軟膏を量りとった容器をセットすると、容器内部で強く攪拌が起こるように回転させ、1分足らずで混合を完成させます。後片付けも減り、技術も必要なく、脱気もされるため見た目も滑らかとメリットばかりです。現在使用中の軟膏容器では50gまでしか機械に対応できないため、新しい100g容器を調達中です。



▲小型自動軟膏混練機

今回、紹介した設備以外にも薬剤科業務の一助になるように環境を整えることができましたのは、他部門その他のご理解、ご協力があったおかげです。薬剤科としては、より質の高い薬物治療の提供を行うことで還元していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

(薬剤科 平松 匡邦)